

# Frequent detection of antinuclear antibodies and low-titre rheumatoid factor in female patients with undifferentiated peripheral spondyloarthritis in Japan: A prospective observational study

本邦における分類不能末梢性脊椎関節炎の臨床的特徴に関する検討

茂久田 翔

本研究は、本邦における分類不能末梢性脊椎関節炎（upSpA）の臨床像、とくに性差に着目した特徴を明らかにした前向き多施設観察研究です。末梢性脊椎関節炎（pSpA）は、末梢関節炎や付着部炎を主な症状とする疾患群であり、2011年に脊椎関節炎国際学会（ASAS）より提唱された基準に基づいて分類されます。upSpAは、このpSpAの基準を満たしつつ、乾癬性関節炎、反応性関節炎、炎症性腸疾患関連脊椎関節炎のいずれにも該当しない患者群と位置づけられますが、その臨床的特徴について国内外で十分に検討されてきたとは言い難いのが現状です。

本研究では、上記の基準で分類された upSpA 29 例（女性 19 例、男性 10 例）を対象に、身体所見および検査所見の性差を検討するとともに、未治療の関節リウマチ（RA）14 例を対照群として比較解析を行いました。その結果、女性 upSpA 患者では、複数部位にわたる付着部炎が高頻度に認められ、また、血清 C 反応性蛋白（CRP）値が男性 upSpA 患者と比較して低値であることが明らかとなりました。さらに、女性 upSpA 症例の約半数で抗核抗体（ANA）が高力価（160 倍以上）で陽性であったのに対し、男性 upSpA 患者では ANA 陽性例は認められませんでした。RA 群との比較では、upSpA 群において多部位の付着部炎が高頻度に認められました。また、リウマトイド因子（RF）は upSpA 群でも約 45% で陽性でしたが、その力価は RA 群と比較して低値でした。ROC 解析の結果、RF 84 IU/mL をカットオフ値とした場合、感度 57.1%、特異度 93.1% を示し、高い特異度で RA を鑑別し得ることが示されました。

本研究により、本邦において HLA-B27 陽性率が極めて低いという背景のもと、upSpA の臨床的特徴が明らかとなりました。特に女性症例では、低力価 RF 陽性や ANA 陽性、CRP 陰性などの所見を認めた場合であっても、RA や他の膠原病疾患との慎重な鑑別を行ったうえで、upSpA に分類される可能性を否定すべきではないことが示唆されました。

<https://doi.org/10.1093/mr/roaf010>



